



オーガニックやまぐち

初の販売イベント“秋の収穫祭”を終えて

山口市有機農業推進協議会産直部会
 部長 原田正暁

役員をはじめ会員の皆様のご協力を得て、初めての販売イベント“秋の収穫祭”を、去る 11 月 29 日(日)、小郡町下郷の「農家さんの台所」で開催しました。コロナ禍の中での手探りの取組でしたが、お陰様で多くの消費者のご来場を得ることができました。

山口市有機農業推進協議会産直部会が「農家さんの台所」で開催した“秋の収穫祭”には、山口市内から安全安心な野菜を求める親子連れの消費者らで賑わいました。収穫祭は軽トラ市と称し、野菜生産者 5 台と雑炊キッチンカーや自然酵母パン、自然加工食品、漬物のコーナ等も設けました。生産者らの有機野菜を手にした丁寧な説明に、消費者は「安全シールの貼った野菜は選びやすいし、スーパーと比べて甘くて美味しい」、「これからも続けて欲しい」と試食をしながら買い求めていました。

当部会は、2019 年に生産者・消費者ら 102 名の会員でスタート。健康を守る農産物を生産し健康なまちづくりに貢献しようと発足しました。認証委員会を設け、安全シールの作成に取り組みました。植え付けから収穫まで化学農薬・化学肥料不使用を栽培基準とし、生産者のほ場や土壌の検査、栽培技術の研修等を重ねながら、商品に貼る安全シールを今年の 5 月に完成させました。各販売協力店の協力を得てシールを貼った野菜が店頭に並び、今では消費者から買い求めやすいと評判となり、他団体からも評価されています。

市内江崎から出荷した原田由美子さんは「関心があったのか近所の方も人を誘って来られ、思ったより買い物客多かった。健康維持には有機野菜で免疫力のアップはか

かせない」と呼びかけました。仁保から雑炊キッチンカーで参加した末永光正さんは「有機野菜の専門店が少ないためか意外と来場者が多かった。根深いファンのためにももっと生産者を増やす必要がある」と話します。

平川から漬物類の販売で参加した吾郷明美さんは「地域の口コミや『農家さんの台所』渡邊寛店長の人脈もあり盛会であったと思う」と。販売拠点で出店に協力し、知人らに呼びかけられた同店長は「呼びかけた知人の顔も見られ思ったより来場者は多かった。出荷された農家も喜んでおられ嬉しかった」と話されていました。

有機栽培と並行して販売された慣行野菜農家も知人の買い物客で賑わっていました。

今回のような大規模のイベントは初めてです。反省すべき点は反省しながら、コロナ禍の中、免疫力アップに繋がる有機野菜の消費を伸ばしたいと考えています。これからも消費者の要望に応えられるよう、毎月末の日曜日の通年開催に向け努力したいと、話し合っています。



うっきーの突撃レポート

“秋の収穫祭”

協議会会員で「やまぐち食育くらぶ」代表の食育指導士うっきーこと西本葉子さんに、今回は、お手伝いも兼ねて産直部会が初めて開催した販売イベント“秋の収穫祭”に参加いただき、レポートの作成もお願いしました。「山口市有機農業推進協議会（愛称：オーガニックやまぐち）」のホームページにも掲載しますが、会報でも報告させていただきます。うっきーさんの分かりやすい文章で、当日の会場の雰囲気をご賞味ください。

第一回秋の収穫祭が無事閉幕しました！

食育指導士うっきー西本葉子です。

山口市有機農業推進協議会（オーガニックやまぐち）の産直部会による第一回秋の収穫祭が、2020年11/29（日）に開催され、大賑わいしました。

（アルコール消毒・マスク着用などコロナ対策へは配慮を実施）



当日は天候にも恵まれ、客足の絶えることなく、終了時間14時ギリギリまで来客を迎えました。

先着50名のつくたてのお餅サービスはすぐ定員となり、新米のおにぎり試食会も好評！

雑炊キッチンカーの雑炊はお客様とスタッフのお腹を温かく満たしてくれました。

県議さんや市議さんもお見えになり、山口の今後の農政や食育、有機農業の推進について夢を語り合うことも出来ました。吉田さん、中野さん、ご来場ありがとうございました😊



山口県議会議員 吉田充弘さん



山口市議会議員 中野光昭さん





今回の収穫祭はこの認証シールの認知度向上につながったのではないのでしょうか？メディアの取材もあり、次回以降も期待されます。

そして、この見事なレタスにビックリ！葉はしっかりと巻き、ずっしりとしています。

無農薬なのに、虫に食われていないのは何故？と不思議に思いました。

伺ってみると、レタスの隣にサニーレタスを植えると、害虫除けになるんですって。こうした組み合わせが出来る野菜を、コンパニオンプランツと言うそうです。

さらに野菜作りには工夫がありました。海水を土壤に撒き、2回ほど雨が降るのを待って、土のミネラル濃度を人のミネラルバランスに合わせてから種を撒くそうです。



土壤に豊富なミネラルが入っているので、出来上がった野菜には、体に必要なミネラルが揃っています。そして、美味しい！生産者の方と直接お話ができるのも、産直ならではの楽しみですね。

産直部会の皆さまにおかれましては、準備など大変だったと思いますが、本当に素晴らしい収穫祭でした。

今回の催しが、山口市の有機農業推進に向けての大きな一歩になったと感じています。

来月 12/27(日)には第二回目が開催予定！今から楽しみにしています。それでは、また！次回レポートをお楽しみに！



農林水産省主催のシンポジウム報告

2020年9月29日開催の農林水産省が主催した「有機農業と地域振興を考える自治体ネットワークシンポジウム」に、オンラインで参加しました。会員の皆さんにお伝えしたいことがありますので、簡単に報告させていただきます。紙面の関係で、次の3点について報告します。これらの事例から若者の有機農業への参入についても考えるべき時期にきているように思えます。

●自治体ネットワーク

1つ目は、「有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク」についてです。市町村（首長）が運営にかかる企画・立案等を担当し、都道府県や民間企業が市町村の取組をサポートする「有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク」が、令和元年（2019年）8月に結成されています（当面は、農林水産省農業環境対策課が事務局）。山口県内では宇部市長さんが会員になっておられます。

●青森県黒石市での事例

2つ目は、青森県黒石市の「㈱アグリーンハート」についてです。この農業法人では、面積を拡大できる（機械を更新できる）大型農家・農業法人による企業農業（平地向き）と栽培方法などにこだわった生産方法で地域性やストーリーを伝えるような農産物の生産をする職人農業（山間地向き、休耕地の再生につながる）との2タイプの農業を行っていま

す。特に後者は、付加価値をつけるために、木村秋則さんの自然栽培を採用し、耕作放棄地の再生にも尽力され、また障害者雇用にも取り組んでおられます。

●千葉県市原市での事例

3つ目は、千葉県市原市の「㈱ONE DROP FARM」についてです。この農業法人では、有機的管理による蜜源管理と養蜂事業による農業の再生に取り組んでおられます。耕作放棄地などの条件不利農地の再生に当たっては、緑肥と蜜源植物で有機的に管理することで、有機農業者を呼び込むことに取り組んでおられます。

なお、ネット環境のある方で詳しい内容をお知りになりたい方は、次のURLをご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuki/jichinet.html>

【報告者：東孝次】

私たちと同様の趣旨で活動している2団体の来年2月、3月のイベントをご案内します。

子どもの食と未来を考える食育フォーラム「命と土がつながる給食」

主催：子どもたちの健やかな未来を ヤッターネ！やまぐち

日時：2021年2月14日（日）13:30～15:30

テーマ：土は子どもの命そのもの！生きる力を育む食育

会場：山口市民会館 小ホール 定員：100人程度（託児アリ1人¥1,500） 参加費：無料

プログラム：13:30～15:00 パネルディスカッション・質疑応答 15:00～15:30 交流会

第30回環境保全型農業フォーラム

主催：山口県環境保全型農業推進研究会（通称：やまぐち環保研）

日時：2021年3月14日（日）10:00～16:00

テーマ：売り渡される食の安全——なぜ日本だけが世界と逆走するのか

講師：山田正彦さん（弁護士・元農水大臣）

会場：防府市地域協働支援センター（防府市栄町一丁目5番1号 ルルサス防府2階）

活動報告：中野茂樹さん（会員・長門市在住）こうすりゃできる！自然農法

山口市有機農業推進協議会

【事務局】

山口市農林政策課 TEL:083-934-2817 FAX:083-934-2651 E-mail:n-seisaku@city.vamaguchi.lg.jp